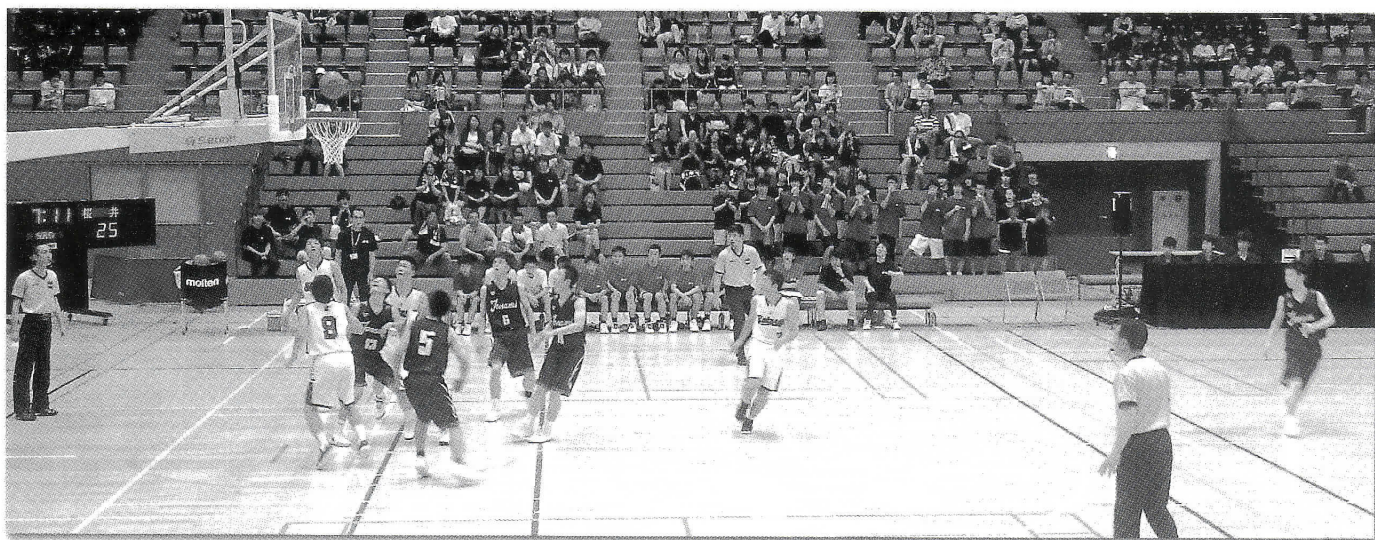


中 砺波同窓会 会報

— 平成30年8月・第34号 —



富山県高校総体バスケットボール競技 3位決定



良き校風未来に向かって

同窓会長 新納 耕 一

同窓会員の皆様には、常日頃何かと温かいご支援ご協力を頂きありがとうございます。

さて、昨年、12月中旬に砺波市美術館で市民のコレクション展があり、その折、企画展示室において、砺波高校校歌の原稿の展示がありました。校歌の作詞者の偉大な詩人、室生犀星先生直筆の原稿が、ケースの中に大切に保管・管理されていました。そこには、先生の書かれた日記や手紙も一緒に展示されており、山本哲也氏による“校歌覆考”を通して、いろいろなことを知ることができました。例えば、この校歌が出来た当時は、出町高等学校であったこと、当時の廣島武雄校長に幾度となく手紙で改作が送られていたこと、また、手紙の中で次のような文面、「七五調で行けば古くなり、口語で行けばだらしなくなり、清新の狙いどころが校歌的にならないのです。ご叫読下さい。」と正に先生の作詞への情熱と努力の跡がうかがい知ることが出来、先生の「心」そのものが校歌の中に生きていたと思いました。この校歌が初めて発表されたのは、昭和25年10月21日(土)学園祭第一日であったと記されています。

大変うれしいことに、母校の合唱部が、室生犀星先生

の直筆の原稿の前でコンサートを開き大変好評であったと聞きました。歌う生徒たちも、聞く観客の皆様も、この校歌の一言一句に込められた意味に思いを巡らした一時であったことと思います。

また、今年の創校記念講演では、講師に資格研究家で、自称「資格マニア」として自負しておられる鈴木秀明氏（高52回卒）を招き、「7日間勉強法の原点」と題してご講演を頂きました。569個（講演時）の資格を独学で習得され、今も年間約50個ペースでの資格取得に取り組んでおられるとのこと。未知の世界が広がり、「資格」と「学び」をライフワークとする日々だそうです。生徒たちには、勉強もゲームと同じと捉え、工夫と戦略的な取り組みの中で勉強のモチベーションを保つことが大切と話されました。先輩の話から旺盛なチャレンジ精神をもつことの素晴らしさを感じたのではないかと思います。

最後になりますが、創立110周年記念事業が、やむを得ぬ事情により2019年10月25日(金)に変更となりました。また、今年は役員改選の年でもあります。今後とも、本校の発展と会員相互の絆を大切にしながら、良き伝統が先輩から後輩へと引き継がれていくことを心から念じ挨拶とします。



必要なのは「コンパス」

校長 林 誠 一

礪波同窓会の皆様には、常日頃から本校教育活動に多大なご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

学校では、学習指導要領や規則、地域の実情、生徒・保護者の願いなど多くの要素を踏まえ、学校独自のカリキュラム（教育課程や教育内容など）がつくられています。本校にはさらに、校訓である「道義為之根」「質実剛健」「自強不息」「進取而敢為」の精神によって、砺波高校に相応しい「隠れたカリキュラム」が存在するように思います。明るく素直な性格や基本的な生活習慣、もっと向上したいという積極性を生み出すのは、砺波の落ち着いた地域性、穏やかな風が流れる空間の中で、本校の「隠れたカリキュラム」が機能しているからです。歴史と伝統に包まれ、学び喜びや連帯感を感じることのできる環境が、砺波高校生であることの自信と誇りを育んでいると感じます。

さて、教育を取り巻く環境は目まぐるしく変化し、

そのスピードはどんどん増えています。日本の次世代を担う子どもたちが、何を、どう学んでいったらよいのか。そんな子どもたちにどのような学びの環境を整えればよいのか。教育の変化のスピードがこれだけ速くなると、既成の「地図」だけでは不十分で、「何をしたいか」という学びに向かうための「コンパス」が必要になってきます。学ぶべきは、「何を学ぶか」ではなく、「どうやって学ぶか」です。

「教育」と「学び」を英語で言うと「Education」と「Learning」ですが、これから大切になるのは「Learning」であり、「学びに向かう力」です。勉強する意欲やモチベーションが存在し、「学びたいから学ぶ」という姿勢がますます重要になってきます。それは大人になってからも同じで、興味をもったところに行動が起こり、その行動の中から「学び」が起きできます。

本校は、「すべては生徒のために」を基本理念とし、全職員の力を同じ方向に結集し、生徒や保護者はもちろん、礪波同窓会の皆さまにとって魅力ある学校づくりに取り組んで参ります。

礪波同窓会の皆様の変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成30年度 理事会開催

4月17日、松鷹会館多目的ホールにて新納耕一会長出席のもと、30名（学校側7名含む）で理事会が開催されました。今年度は役員改選の年で、新たに河合常晴副会長（高35回）の就任や幾つかの支部で支部長交代も報告されました。また、これまで同窓会活動の要であった支部長の規約への明記や次年度は周年事業開催のため8月総会は開催せず、今回の総会は卒業回の下1桁が4と5の連続する2つの学年を招待回とすることが承認されました。理事会終了後はTONAMI翔凜館（旧砺波平安閣）に場所を移し、鈴木秀明（高52回）記念講演講師を交え、懇親会が開催されました。

2019年10月25日（金）

～ 110周年記念式典・記念講演会・祝賀会・総会に向けて ～

現在の天皇陛下の退位の日程も具体的に決まり5月からは平成に続く新しい時代の幕開けとなり、その新しい時代に本校は創立110周年を迎えることになります。

当初は創立110周年記念事業を4月に行うとお知らせしましたが、元号が変わることや人事異動等の関係で約半年後の10月25日（金）開催に日程が変更されます。記念式典・記念講演会は砺波市文化会館で、祝賀会・総会はTONAMI翔凜館での実施を予定しています。

また、事業推進のため、実行委員会の中に企画委員会、式典・行事委員会、記念誌編纂委員会の3つの委員会が組織されました。会計については特別な募金活動等は行わない（篤志は受け付ける）提案が理事会でありました。7月の第2回企画委員会を経て、概案、予算について、より具体化されたものを総会で提案し承認の後、2019年度に向け進めていきます。また、記念誌編纂委員会は理事会後の5月から始動しました。

東京支部

東京礪波同窓会節目の第90回定時総会・懇親会が4月21日(土)大手町サンケイプラザで盛会裏に催された。

第一部の総会は司会の廣勢幹事長(高20回)の開会の辞と物故会員に対する黙とうで始まった。中村会長(高14回)が挨拶を行い、会長が議長を務めて議事に入った。第一号議案は平成29年度収支計算書と財産目録並びに監査報告の承認の件、第二号議案は任期満了に伴う総会選任役員選任の件であった。次いで新納耕一礪波同窓会会長の挨拶があり来年度に砺波高等学校創立百十周年を迎えにあたり、来年10月25日(金)に記念式典を挙行するとの案内があった。

第二部の講演会では、本会90周年を記念して二人の講師による講演があった。最初は綿貫民輔氏(中32回)による「私の健康法」と題する講演で、健康維持は50年継続されている足裏を鍛える竹踏みと飲食への配慮で二十歳時の体重に戻され、自分の足での会合出席を実現されているという。次いで、慶應義塾大学理工学部准教授の地村弘二氏(高43回)による「ヒトの柔軟な心を理解する脳の科学」と題する講演で、現在では脳の活動に関係する信号を観測する機能性MRIがヒトの賢さや心の豊かさを理解する中心的手法であるという。

第三部の懇親会は、来賓からの祝辞で始まった。林誠一校長からは、新しいものを積極的に取り入れて元気な砺波高校を目指す挨拶があった。次いで、東京富山県人会連合会の東豊昭常務理事から高校生・中学生に対し富山にゆかりの場所を案内する企画が紹介された。

祝電の披露に続いて、中島知行顧問の大きな張りのある「カンパニー」に一同唱和して賑やかに開宴となった。それに続いて、関東富山県人五箇山会による麦屋節とこきりこ節の演舞が披露された。独特の哀調の響きは90周年の祝賀ムードをも一気に高めた。宴の進行に伴い、11名の初参加の会員の紹介があった。宴の幕に近づくころ、砺波高校の校歌と応援歌の斉唱に続いて、東京礪波同窓会から本校へ、そして本校から東京礪波同窓会へのエールの交換、記念の集合写真撮影を行い、今藤副会長の中締めで散会となった。



福野支部

第90回砺中・砺高同窓会福野支部総会及び懇親会が、毎年恒例の2月11日、福野文化創造センターヘリオス内「トレミー」にて開催されました。

当日は、砺波高校より林誠一校長先生をお招きし、支部会員11名の出席を戴きました。吉井正和支部長の開会の挨拶に続き、林校長先生より砺波高校の近況報告特に、運動部、文化部の活躍には目覚ましいものがあり、後輩たちを頼もしく思うとともに、先生方のご尽力に改めて感謝しました。

懇親会は鍛冶武二先輩(高13回)の乾杯で始まり、続いて参加者全員の自己紹介及び、



近況報告を行い親睦を深めました。

また、全員で応援歌「一脈冴えて」、「臥薪嘗胆」を歌い、最後に「校歌」を斉唱して、高校時代を懐かしく思いました。終わりに、山崎信之先輩(高9回)の母校の益々の発展と参加者の健康と多幸を祈念し、また一年後の再会を誓い万歳三唱をして散会となりました。

富山支部

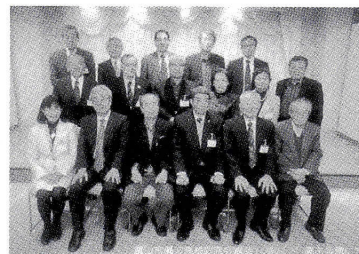
平成29年度、礪波同窓会富山支部の総会と懇親会が、H29年11月21日に富山市高志会館にて、18名の参加のもと盛大に行われました。

杉木会長の挨拶の後、平成29年度秋の叙勲(瑞宝双光章)を受けられた平木弘様(高17回)長尾恒憲様(高17回)のお二人にお祝いの花束を贈呈いたしました。お二人からは、お祝いの饅頭をいただき美味しく頂戴しました。

会計報告、役員改選が行われ、新会長に川岸広幸氏(高23回)新副会長に高倉康氏氏(高25回)新幹事に村本幸雄氏(高26回)が承認されました。

懇親会では、各自1～2分の近況報告が、皆さん長くなり、より親睦を深めることができました。

最後に、恒例の校歌並びに応援歌『一脈冴えて』を全員で斉唱し、和やかな雰囲気のもと終了しました。



砺波支部

平成30年度の礪波同窓会砺波支部役員総会は、6月6日(水)16時30分より、総勢36名の参加を得て、砺波市矢木地区の「草の家」で開催されました。

総会は、平井宗壽支部長の挨拶に始まり、来賓の新納耕一同窓会長より同窓会の活躍の報告、また、林誠一校長からは、当校の学生は、勉強だけではなくクラブ活動や生徒会活動にも力を入れており、活気のある学校生活を行っているとの近況報告がありました。

引き続き、総会の議題審議に入り、平成29年度事業報告、収支決算報告そして、平成30年度事業計画(案)、収支予算(案)の説明があり、満場一致の承認を得ました。その他、平成30年度砺波高校の主な行事予定、礪波同窓会砺波支部会員数(前年比+58)等について説明がありました。

引き続き、支部総会恒例の「会員スピーチ」では、尺八演奏家として有名な片山睦山(高25回)さんより、「奇跡の楽器 尺八」と題して、古来から歴史、楽器との出会い今までの活躍、現在の世界的な活躍に至るまで話をさせていただきました。また、演奏では、妙なる奏にうっとり耳を傾けてしまいました。

懇親会は、新納耕一同窓会長の乾杯の発声により始まり、時間の過ぎるのも忘れて歓談をし、親交を深めました。

最後に、林誠一校長の音頭により、礪波同窓会砺波支部会員と母校の発展を祈念して万歳三唱がありました。

予定の時間を超えての散会となりました。

今回は、砺波支部の役員改選の時期であり平成27～29年の3年間お世話を頂いた役員の方には、ご苦労様でしたとお礼を申し上げます。





創立記念講演

7日間勉強法の原点

資格コンサルタント

鈴木 秀明

(高52回卒)

プロフィール

1981年砺波市生まれ。東京大学理学部卒。東京大学公共政策大学院修了。気象予報士・中小企業診断士など570個以上の資格・検定試験にすべて独学で合格している資格マニア。総合情報サイトAll Aboutで「資格」ガイドを務めるなど、資格や勉強法の専門家として多方面で活動。テレビ・ラジオ・雑誌などのメディア出演実績200件以上。著書に『効率よく短期集中で覚えられる 7日間勉強法』（ダイヤモンド社）など。

大学時代に「資格取得」にハマリ、年間数十個ペースでさまざまなジャンルの資格を取り続け、気付けばいつしか「資格の専門家」として活動するようになりました。これまでに4冊の勉強本を書いています。過去に書いてきた勉強法トピックには、砺波高校在学中に自分なりに編み出したやり方や、当時のエピソードと絡めて書いてみた内容が実はたくさんあります。その中からいくつかをご紹介します。

[1] 苦手な科目・分野こそやる

理系だったのでもともと国語は苦手科目でしたが、思い切って国語を伸ばしてみたら5教科の総得点が想像以上に大きく向上しました。すでに80点とれている得意科目は満点の100点まで最大20点しか加点できませんが、40点の苦手科目を鍛えれば最大60点も伸ばせます。「苦手」はイコール「伸びしろ」です。し、苦手というのは多くの場合、単なる思い込み・食わず嫌いです。逆に、得意な科目ばかりやっていると、解けるのが気持ちいいという自己満足にしかありません。

[2] 国語力を鍛える

国語力を伸ばすと、論理的思考力・文章力・読解力なども上がるので、他の科目でも問題文を読むスピードが上がったり、記述式問題で質の高い解答が書けたりといったメリットが相乗的に発生します。また、こうした国語スキルや漢字・敬語力は、大学に入ってから・社会に出てからも必要になるので、早い段階で鍛えておくのが良いです。

[3] 問題を解きまくる・模試は受けまくる

砺波高校は夏休みなどに死ぬほど宿題が出た記憶が強烈に残っていますが、とにかく問題集や模試は解きまくりましょう。教科書を読むだけの勉強では「わかったつもり」になりがちです。実際に問題を解いてみることで「わかったつもり」になっていないかがはっきりします。問題を解くということは、「実はわかっていないところ」を洗い出す作業でもあり、そういう箇所をどんどんつぶしていくことがその真の成長につながります。

[4] 漢字検定を受ける

高校時代なぜか漢字検定にハマリ、高2で準1級までとりました。受験勉強のような長期の勉強ではモチベーションを高く保ち続けることは大変ですが、「〇月の〇〇検定〇級に合格する!」という、期限とレベル感が明確になったミッションを立ててみることで、よりがんばれる & 具体的な行動に移せるようになりますし、日々の勉強のちょっとしたスパイスにもなります。他にも「日本語検定」「数学検定」「歴史能力検定」「旅行地理検定」などもオススメです。

[5] やることを1日単位に細分化して、見える化する

ある程度まとまった量の宿題や問題集などは、1日あたりのノルマを落とし込んだスケジュール表をパソコンで作成していました。「マスをひとつずつつぶしていく感覚が楽しい」「進捗が予定より遅れていたら一目でわかる」といったメリットがありました。

[6] 勉強記録をつける

毎日の「勉強の内容」や「テストの結果」や「感じたこと」などを、簡単にでも必ず記録に残すようにしていました。その日一日の行動のタイムテーブルや勉強時間も記録していました。これを行うことで状況が可視化され、改善のための反省・検討ができるようになります。目に見える形で記録をつけることで危機感が生まれま

[7] 「上がる目標」と「下がる目標」の2つを立てる

高3のとき、「全国模試で県内トップをとること」と「校内の順位は1位をキープすること」の2つを目標として立てました。人は「今より上がる」ことよりも「今より下がる」ことのほうをより本気で死守しようと必死になるので、これらを組み合わせることで効果的な意識付けができるようになります。

[8] どんな環境・状況ならより勉強できるのか?を意識

私は完全に夜型人間で、高3時代は夕方に仮眠をとって深夜に勉強していました。自分はどのような環境・状況だったらより勉強できるタイプか?ということのをあらかじめ意識して、自分をそういう状況に置けるよううまく仕掛けを用意したり、習慣化したりしましょう。

資格マニアとして、社会人になってからもいろんなことを勉強して思うのは、高校時代に勉強した内容や、たくさん勉強してきた経験は、なんやかやで間違いなく今の自分のベースになっているということです。

日々の勉強で「こんなこと勉強して将来本当に何かの役に立つのかな?」と思えることも多々あるかもしれませんが、きっと何らかの形で自分の糧になっていると信じて取り組んでみていただければと思います。

生徒の感想より

- ・ 具体的な勉強の前に自己管理ができるようになりたいと思った。
 - ・ 今日やるべきことを明確にして『やりきる』と意識することでやる気が上がるとわかった。
 - ・ 自分のタイプを見極めて(自己分析)、自分が頑張れるスタイル(自分スタイル)を早く見つけ、楽しく勉強したいと思った。
 - ・ 『上がる目標・下らない目標』をたて、仲間と共に残りの時間を過ごせたらいいと思った。
 - ・ 『苦手教科はのびしろ』に共感した。(複数)
 - ・ 浅井先生の学生時代の様子もわかり面白かった。
 - ・ 高校時代だけでなく大学、社会に出て活かせる勉強をしていきたい。
- ありがとうございました。



同期の浅井教諭(左)と対談形式で実施

同級会だより 第63回卒業生同窓会

同窓会考『大切なものが消えてなくなるということ』

大切なものが「消えてなくなる」ということがある。学生時代に熱中していた部活動、とても仲の良かった友人、あんなにも大切だったのに、大人になるにつれてその存在を意識しなくなり、思い出すことさえ難しくなってしまうことが。

私はそれを「大切な存在が自分の中に『溶けていった』のだ」と思う。中学校でやった塩の溶解実験のように、目に見えなくなったようでいてそれはしっかりと自分の中に溶けている。

溶けていった大切な存在は、場合によっては他の経験と結びついて意味を変容させたり、全く新しい価値観の種になっていたりする。思い出せなくなってしまったように思われた大切な経験は、不可分な自身の一部となっている。大切なものは消えてしまったのではなく、自分自身となったのだ。

閑話休題。

去る2018年1月3日、第63回卒業生同窓会を開催しました。100名超の級友が集い、自分自身のアイデンティティの一部である高校時代を振り返る、素晴らしい時間となりました。

私達が高校に入学したのは2008年(15歳)、成人式で集まったのが2013年(20歳)、今回の同窓会は2018年(25歳)で、次の同窓会は2023年(30歳)に開催予定です。5年毎、人生の節目で旧交を温め、自分の中に溶け込んでいる大切な経験を思い出す機会としたいと思います。

(佐藤公彦)



2013年成人式幹事(20歳)
まだ少し若さが残る



2018年同窓会幹事(25歳)
少しだけ大人の雰囲気が伺える

碧流会 ゴルフ大会

ふるってご参加を!! 一次年度も4月29日予定

高校OB対抗 ゴルフ大会

去る4月29日(日・祝)、ゴルフ倶楽部ゴールドウインにて、38名の参加で第107回碧流会ゴルフ大会を開催しました。

好天に恵まれ参加者一同、和気あいあいとした雰囲気の中でゴルフを楽しみました。大会には綿貫名誉会長を始めとし、多くの同窓生より協賛をいただき改めて感謝申し上げます。TONAMI翔凛館での懇親会では、新納同窓会長などゴルフに参加できなかった同窓生も加わり、一献を傾けながら旧交を温めることができました。最後に校歌と応援歌を声高らかに合唱し、同窓の絆を深めました。

(碧流会事務局 久恵 龍三(高22回)記)

6月3日(日)に高岡カントリー倶楽部において県下28校の参加のもと、第30回富山県高校OB対抗ゴルフ大会が開催されました。昨年の4位を上回るべく選手8名全力で臨みましたが、残念ながら10位に終わりました。成績こそ不本意でしたが、天気にも恵まれ選手間の交流や他校との親睦も図れ大変有意義な大会となりました。

(幹事 石橋 弘行(高33回)記)

■ 第107回碧流会ゴルフコンペ H30.4.29

コンペ成績(ベスト5)

		グロス	ハンディ	ネット
優勝	尾山 裕和(高23回)	77	6.0	71.0
準優勝	平澤 裕治(高18回)	92	20.4	71.6
3位	高田 照久(高23回)	88	15.6	72.4
4位	野澤 正一(高22回)	99	26.4	72.6
5位	定村 仁志(高22回)	102	28.8	73.2

■ 第30回富山県高校OB対抗ゴルフ大会 H30.6.3

第10位(出場校28校)

(代表)	新納 耕一	(幹事世話人)	石橋 弘行
(選手)	米田 行男(高24回)	田中 延佳(高25回)	
	石橋 弘行(高33回)	今井 昭浩(高34回)	
	斉藤 文彦(高34回)	島 嘉輝(高34回)	
	片岡 勇次(高38回)	吉田 有作(高38回)	

母校での かけがえのない時間

- 吉田 邦子 (高 9 回卒)
- 吉田 裕 (高 35 回卒)
- 吉田真寿美 (高 38 回卒)
- 吉田 悠夏 (高 66 回卒)
- 吉田 愛悠 (3 年生)

我が家は、今は亡き耕造 (高 6 回卒) を含めて親子三代、全員が砺波高校の同窓生です。今回、同窓会誌に載せていただけることを大変光栄に思います。

邦子 (高 9 回卒) が高校生だった頃は、現在の校舎の先代の校舎が新校舎だった時代です。今は、孫の送迎で毎日母校へ登校しています。

裕 (高 35 回卒) は、高校 1 年生の時から 2 限目が終わるとハムサンドパンを目指して食堂へダッシュ。3 年間そんな生活が続きました。ハムサンドパンは人気商品のためすぐに売り切れるので、2 限目の授業が延びないことを祈っていました。また、軽音楽部の助っ人として、かぐや姫や高中正義のコピーバンドをやりました。技術よりも髪型と服装で目立っていた？！3 年生の時はサテライトスタジオで二人組で自分の好きな歌を歌えて満足感を味わうことができました。肝心の勉強の方はさっぱりでしたが・・・。

真寿美 (高 38 回卒) は福光駅から城端線で通学しました。朝も帰りも、ホームに滑りこんでくる電車との追いかけてこの毎日。バスケットボール部に所属し、当時の先輩やチームメイトとは今もご縁があり、人生の宝となっています。当時の体育館は、コート我真ん中あたりにボールが弾まないところがあり、みんなそこを避けてドリブルしていました。部活動の後には、今は閉店された谷川書店での RC コーラが欠かせませんでした。また、食堂も友と語り合った思い出深い場所です。うどんもそばもラーメンも同じだし汁、という砺波高校同窓生アルアルがなくなったのは、寂しい限りです。谷川書店や食堂の閉鎖のニュースは、県外に住む友人たちに一斉配信で知らせ、懐かしさと寂しさを共感していました。



娘たちも砺波高校同窓生になりました。

長女の悠夏 (高 66 回卒) は、高校 3 年間で最も力を注いだことは、部活です。吹奏楽部に所属し、打楽器パートを担当しました。特に思い出に残っているのは、高校 2 年生の時に打楽器アンサンブルで、砺波地区大会、富山県大会を勝ち抜き、中部日本重奏コンテストに出場できたことと、高校 3 年生の定期演奏会で、劇の総監督として脚本を一から考えたことです。この学年は、部員が 25 人を越える大所帯で、時にはぶつかり合うこともありましたが、それくらい皆が部活のことを真剣に考えていたのだと思います。部活で出会った仲間は、今でも大切な存在です。

今は、次女の愛悠 (3 年生) が砺波高校に通っています。受験生となり、吹奏楽部の活動も残りわずかになりましたが、最後のコンクールに向けての練習に一生懸命の様子です。勉強との両立、睡魔との戦いに日々苦戦しながらの高校生活です。

いつか 4 代目が砺波高校に学ぶ日があるのかなのか…それはまだ分かりませんが、代々お世話になった大切な母校の更なる発展を祈りながらそれぞれが自分の人生をしっかり歩みたいと思っています。



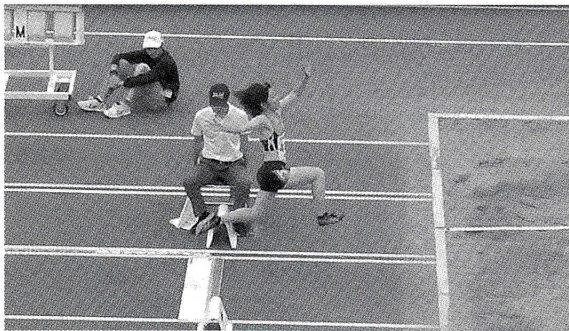
栄 光 の 記 録

【放送部】

◇第 57 回富山県放送コンテスト			
アナウンス部門	優良賞	坂下ひとみ	22 H
朗読部門	優良賞	高林 鈴代	32 H
ラジオドキュメント部門	優良賞	西村 知統	13 H

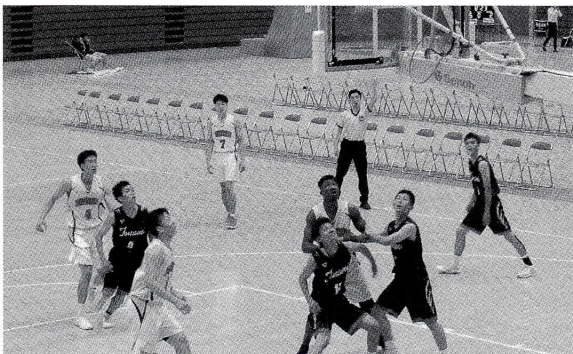
【陸上競技部】

◇第 23 回富山カップ陸上競技大会			
女子 3000m	5 位	福田菜々子	23 H
女子 800m	6 位	神下加奈子	24 H
◇第 71 回県高校陸上競技対校選手権大会			
女子走幅跳	2 位	白山 穂翔	31 H
女子やり投	5 位	永生 彩乃	13 H
※以上 北信越高校総体出場			
女子七種競技	6 位	大森 茉央	32 H
女子 800m	7 位	神下加奈子	24 H
男子 110mH	7 位	土原 優太	21 H
女子棒高跳	8 位	森 浄香	23 H
女子走幅跳	8 位	石黒 葵	14 H



【バスケットボール部】

男子の部	
◇富山県高等学校春季バスケットボール大会	
	ベスト 8
◇富山県高校総体バスケットボール競技	
	3 位
※北信越高校総体出場	



女子の部	
◇富山県高等学校春季バスケットボール大会	
	ベスト 8
◇富山県高校総体バスケットボール競技	
	ベスト 8

【ソフトテニス部】

◇富山県高校総体ソフトテニス競技			
男子団体	3 位		
男子ダブルス	ベスト 16		
野原 海斗	32 H	組	※以上北信越高校総体出場
長谷川多聞	31 H		

【サッカー部】

◇第 5 回全日本ユース (U-18) フットサル大会	
富山県大会	準優勝

【ラグビー部】

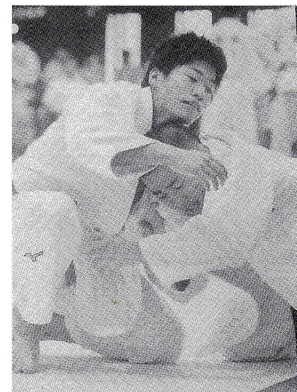
◇富山県高等学校春季ラグビーフットボール大会	
少人数制の部 (砺波・魚津合同)	準優勝
◇全国高等学校 7 人制ラグビーフットボール大会	
	準優勝

【バドミントン部】

◇平成 30 年度バドミントン砺波地区大会			
男子シングルス	優勝	山田篤之介	14 H
※以上全国ジュニア選手権県大会出場			
女子シングルス	優勝	山本 采奈	25 H
	3 位	東 知里	23 H
	5 位	佐々木花奈	24 H
※以上全国ジュニア選手権県大会出場			

【柔道部】

◇富山県高等学校春季柔道大会			
男子個人	60kg 級 5 位	杉原龍之介	34 H
◇富山県高校総体柔道競技			
男子個人	60kg 級 5 位	杉原龍之介	34 H
※以上北信越高校総体出場			



【剣道部】

◇第 60 回富山県高等学校春季剣道大会	
女子団体	ベスト 8
◇富山県高校総体剣道競技	
女子団体	ベスト 8

【新体操】

◇富山県高等学校春季新体操大会			
女子個人総合	2 位	佐藤 陽奈	31 H
	4 位	砂道 優花	24 H
◇富山県高校総体新体操競技			
女子個人総合	3 位	佐藤 陽奈	31 H
	7 位	砂道 優花	24 H
※以上北信越大会出場			
◇北信越高校総体新体操選手権大会			
女子個人総合	7 位	佐藤 陽奈	31 H



平成 30 年度入試結果



ー 京都大学に 2 名など、難関大学に現役 17 名が合格 ー

最近の傾向として、文系学部の新廃合と理系学部の増新設が続いています。また求人状況が上向きのため、文系学部への志望が増えています。そのような状況の中、生徒は砺高生らしく最後まで諦めない強い気持ちをもって受験に向かい、京都大学をはじめとする難関大学に多数合格しました。現 3 年生も先輩たちに負けず、日々粘り強く頑張っています。今後の活躍が期待されます。

平成 28・29・30 年度 大学合格一覧

()内は過年度生の内数

国公立大学	H28 年度	H29 年度	H30 年度	私立大学	H28 年度	H29 年度	H30 年度
北海道大学	3	4	3	慶応大学			2 (2)
東北大学	3		2	中央大学	11 (1)	2	5
筑波大学	2 (1)	3	1 (1)	津田塾大学	5	1 (1)	1
千葉大学	6	2	2 (1)	東京理科大学	5	3	5
東京大学	2	2		法政大学	7	7 (3)	2
東京学芸大学			2	明治大学	5 (2)	1	6 (1)
お茶の水女子大学	2		3	立教大学	4	1 (1)	1 (1)
新潟大学	8 (2)	11 (1)	6 (3)	早稲田大学	4 (2)		5 (3)
富山大学	23	35 (3)	36 (1)	金沢工業大学	13 (1)	16 (2)	28
金沢大学	27	35 (3)	27 (1)	京都産業大学	3 (1)	3	10
福井大学	3	2	1	京都女子大学	22	9 (1)	19
信州大学	6 (2)	3	2	同志社大学	16 (5)	8 (1)	15
名古屋大学	6 (1)	1	6	同志社女子大学	3 (1)	1	7
京都大学			2	立命館大学	49 (4)	41 (7)	33
大阪大学	3		4	関西大学	7 (2)	9 (6)	7
神戸大学	4	2 (1)	2	近畿大学	2	11 (5)	6 (1)
国立大医学科	1	2 (1)	3 (2)	関西学院大学	3	4	2
国公立延べ合格数	147 (9)	138 (12)	132 (9)	私立大学延べ合格数	337 (28)	262 (41)	308 (15)

慶弔関係

○叙 勲 (平成 29 年度 秋の叙勲)

吉田 久夫 (30 代校長) 瑞宝小綬章
有川 成正 (高 12 回) 瑞宝双光章
林 義則 (高 17 回) 旭日双光章

(平成 30 年度 春の叙勲)

武部 和浩 (高 15 回) 瑞宝単光章

(第 29 回危険業務従事者叙勲)

長尾 恒憲 (高 17 回) 瑞宝双光章
平木 弘 (高 17 回) 瑞宝双光章
中川 榮 (高 18 回) 瑞宝双光章

○計 報 (平成 29 年 8 月～30 年 5 月)

松井 州一 (中 34 回・旧職員)	瀧野 諒淳 (中 33 回)	永井 宏子 (高 31 回)	斎藤 久孝 (中 36 回)
澁谷 照久 (高 8 回)	筆谷 和夫 (21 代校長)	笠井 國榮 (高 10 回)	苗田 松男 (高 12 回)
高桑 壽一 (中 32 回)	藤井 修二 (34 代校長)	浅田 有峰 (高 32 回)	松川 榮文 (高 13 回)
稲垣 剛一 (20 代校長)	澤田 欣郎 (旧職員)	山本 隆 (旧職員)	長谷川直美 (高 42 回)
小西 昭夫 (中 32 回)	山田 哲雄 (高 42 回)	鍛冶 武二 (高 13 回)	(事務局に連絡があった方のみ)

教職員異動

退職	清玄寺吉郎		
転出	松井 文恵	金川 円	三木 信吾
	二瀬 寛之	吉江万里子	高坂 優佳
	小林 忠史	柴田 広子	永田 倫之
転入	清水 卓	越後 喜紀	大野 宏樹
	中島 芳樹	梁瀬 秀人	中藪 文乃
	中葉 博文	清玄寺吉郎	中村 圭吾

編集

礪波同窓会事務局

〒939-1385
富山県砺波市東幸町 3-36 富山県立砺波高等学校内
TEL 0763-32-2447 FAX 0763-32-2955
HP <http://www.tonami-h.tym.ed.jp/>
E-mail dousou@tonami-h.tym.ed.jp

印刷

株式会社 吉田印刷所

富山県砺波市表町 9-1 TEL 0763-33-2161